

## 事業評価票（資産分析を行う事業）

<b>1</b>	<b>健康安全研究センター検査機器のリース更新（福祉保健局）</b>	管理・運用開始	平成 15 年度																								
資産の概要		・食品衛生検査、細菌検査、水質検査等、公衆衛生関係法令に基づく行政検査、医薬部外品の製造承認審査などの試験検査等を行うための機器である。																									
現状分析	需要状況（利用・稼働等）	【稼働状況】 平成26年度：検査件数 17,483件（更新対象機器）																									
	維持管理コスト	・平成26年度：4,992千円、25年度：4,992千円、24年度：4,992千円（再リース経費） （単位当たりコスト 13千円/日（3年平均））																									
	老朽化状況	・稼働年数 14年/耐用年数 8年 = 耐用年数の1.75倍	老朽化率 100 %																								
	課題・問題点	・再リースにより使用期間を延長するなど可能な限りコスト低減に努めているが、耐用期間を大幅に超過した機器については、故障の頻回化による修理費の増加や、必要な検査結果が得られないことによる行政の活動への支障が問題になる。																									
今後の対応（局計画）		・老朽化の著しい機器は、故障による検査の遅滞や修理の増加も考慮し更新（リース）を行う。 ・更新に当たって必要な機能や検査体制を精査し、可能な限り共有化・集約化を図る。																									
見積概要（局評価）		<ul style="list-style-type: none"> <li>耐用期間を大幅に超過した機器は修理費の増加も勘案し更新することとし、検査体制、機器の性能等も精査の上、台数を15台から13台に集約した。</li> </ul> <div style="text-align: right;">28年度見積額</div> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;">《コスト比較（14年間）》 <span style="float: right;">（単位：千円）</span></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">区分</td> <td style="text-align: center;">台数</td> <td style="text-align: center;">リース経費</td> <td style="text-align: center;">修理費</td> <td style="text-align: center;">合計</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">現行機器</td> <td style="text-align: center;">15台</td> <td style="text-align: center;">698,880</td> <td style="text-align: center;">38,220</td> <td style="text-align: center;">737,100</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">更新後機器</td> <td style="text-align: center;">13台</td> <td style="text-align: center;">484,868</td> <td style="text-align: center;">36,010</td> <td style="text-align: center;">520,878</td> </tr> </table> <div style="text-align: right;">27年度予算額</div> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">28年度見積額</td> <td style="text-align: center;">28,190 千円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">27年度予算額</td> <td style="text-align: center;">4,992 千円</td> </tr> </table>		《コスト比較（14年間）》 <span style="float: right;">（単位：千円）</span>					区分	台数	リース経費	修理費	合計	現行機器	15台	698,880	38,220	737,100	更新後機器	13台	484,868	36,010	520,878	28年度見積額	28,190 千円	27年度予算額	4,992 千円
《コスト比較（14年間）》 <span style="float: right;">（単位：千円）</span>																											
区分	台数	リース経費	修理費	合計																							
現行機器	15台	698,880	38,220	737,100																							
更新後機器	13台	484,868	36,010	520,878																							
28年度見積額	28,190 千円																										
27年度予算額	4,992 千円																										
財務局評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>老朽化に伴う検査機器の更新は、適正な試験検査を実施するためには必要であり、更新に併せて、機器の共有・集約化を行うことで、コスト縮減が図られていることから、局見積額のとおり予算計上する。</li> </ul> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">妥当</td> <td style="text-align: center;">見直し</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">見送り</td> <td style="text-align: center;">その他</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">28年度予算額</td> <td style="text-align: center;">28,190 千円</td> </tr> </table>	妥当	見直し	見送り	その他	28年度予算額	28,190 千円																			
妥当	見直し																										
見送り	その他																										
28年度予算額	28,190 千円																										

<b>2</b>	<b>調査指導船「やしお」の代船建造（産業労働局）</b>	管理・運用開始	平成 6 年度					
資産の概要		・「やしお」は、伊豆諸島北部海域における資源管理型漁業の推進、安全操業の確保等を目的として、水産資源調査・監視活動等を行うために導入された船舶である。						
現状分析	需要状況（利用・稼働等）	【年間運航実績】 ・26年度 163日、25年度 147日、24年度 126日						
	維持管理コスト	・維持管理費（所有）/年間：92,724千円 《単位当たりコスト》平均 639千円/日 ・26年度 101,475千円、25年度 113,583千円、24年度 63,113千円						
	老朽化状況	・稼働年数 21年 /耐用年数 30年	老朽化率 70.0 %					
	課題・問題点	・都には、広大な排他的経済水域が存在しており、4隻の漁業調査指導船が分担して、水産資源調査・監視活動を実施しているが、現在の体制では、小笠原海域における違法操業等への対応に際し、約40日の監視活動空白期間が発生する。						
今後の対応（局計画）		・更新期の「やしお」を航行能力の高い、高性能な監視機器を備えた船舶として建造し、より機動的な監視体制を構築する。						
見積概要（局評価）		<ul style="list-style-type: none"> <li>世界的な水産物需要の高まりから、外国漁船による大規模な密漁・違法操業が横行しているため、広域監視に対応するとともに、精密な漁場調査を行えるよう、「やしお」の耐久性や居住性、調査能力を向上させ、かつ悪天候での航行や長期航海が可能な代船を建造する。</li> <li>平成28年度は、実施設計委託を見積もる。</li> </ul> <div style="text-align: right;">28年度見積額</div> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">28年度見積額</td> <td style="text-align: center;">6,815 千円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">27年度予算額</td> <td style="text-align: center;">2,000 千円</td> </tr> </table>		28年度見積額	6,815 千円	27年度予算額	2,000 千円	
28年度見積額	6,815 千円							
27年度予算額	2,000 千円							
財務局評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>外国漁船による違法操業等に対応し、継続的な漁業秩序を維持していくことは重要な取組であり、更新も現在の老朽化率等から妥当と認められることから、見積額のとおり計上する。</li> </ul> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">妥当</td> <td style="text-align: center;">見直し</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">見送り</td> <td style="text-align: center;">その他</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">28年度予算額</td> <td style="text-align: center;">6,815 千円</td> </tr> </table>	妥当	見直し	見送り	その他	28年度予算額	6,815 千円
妥当	見直し							
見送り	その他							
28年度予算額	6,815 千円							

## 事業評価票（資産分析を行う事業）

<b>3</b>	<b>ごみ運搬船の更新（建設局河川部）</b>	管理・運用開始	昭和 48 年度
資産の概要		・ごみ運搬船は河川水面清掃で回収したごみを集約し、揚陸施設へ運搬するための船舶である。	
現状分析	需要状況 (利用・稼働等)	【年間使用回数】 ・平成26年度：307回、25年度：303回、24年度305回	
	維持管理コスト	・平成26年度（定期検査）：26,025千円、25年度（手入れ）：8,469千円、 24年度（日常修繕のみ）：3,718千円      《単位当たりコスト》平均 35千円/日	
	老朽化状況	・稼働年数：41年/耐用年数30年 (都公有財産規定（鋼船）耐用年数による)	老朽化率 100 %
	課題・問題点	・現在使用している船は船齢が耐用年数を大きく超えており、故障・損傷が多い。 ・修理については、状態確認のためドックに上げた状態で調査が必要なため、時間を要する場合がある。	
今後の対応 (局計画)		・ごみ運搬船の更新（新規建造）を行う。	
見積概要 (局評価)		・現在運用しているごみ運搬船を更新することで、維持管理に係る経費の削減を図る。28年度は建造に係る経費（28,29債務負担行為）を見積もる。	
		28年度見積額	
		— 千円	
		27年度予算額	
		— 千円	
財務局評価		・現在の船舶は老朽化による故障・損傷が多く、修理にも時間を要するため、更新の必要性は認められる。また、更新により維持管理コストの削減も図られることから、見積額のとおり計上する。 《債務負担行為》○限度額：250,000千円 ○期 間：平成29年度まで	
		○ 妥当	見直し
		見送り	その他
		28年度予算額	— 千円

<b>4</b>	<b>直営しゅんせつ用トラッククレーンの更新（港湾局）</b>	管理・運用開始	昭和 57 年度
資産の概要		・直営しゅんせつ船海竜に資機材を積込むためのトラッククレーンを保有している。	
現状分析	需要状況 (利用・稼働等)	【稼働状況】 ・概ね年間0～2回程度	
	維持管理コスト	・維持管理費（過去3ヵ年平均）333千円      《単位当たりコスト》平均 167千円/回 ・平成26年度 345千円、25年度 295千円、24年度 360千円	
	老朽化状況	・稼働年数34年/耐用年数6年	老朽化率 100 %
	課題・問題点	・耐用年数を大幅に超過して使用しており、修繕費用が高額となっている。	
今後の対応 (局計画)		・年間使用頻度及び経済性に鑑み、局所有から賃借に切り替えて対応することとする。	
見積概要 (局評価)		・平成28年度見積216千円（賃借料） ・過去3ヵ年決算平均額333千円（修繕費）に対し、年間117千円の経費削減を図る。	
		28年度見積額	
		216 千円	
		27年度予算額	
		657 千円	
財務局評価		・これまでの使用実績を踏まえ、局所有から賃借に切り替えることで、コストの削減が図られていることから、見積額のとおり計上する。	
		○ 妥当	見直し
		見送り	その他
		28年度予算額	216 千円

## 事業評価票（資産分析を行う事業）

<b>5</b>	<b>指揮艇（しぶき代替船）の購入（港湾局）</b>	管理・運用開始	昭和 50 年度																								
資産の概要		・主として工事監督に使用する指揮艇を所有している。																									
現状分析	需要状況 (利用・稼働等)	【稼働状況】 ・平成26年度 141日、25年度 128日、24年度 123日																									
	維持管理コスト	・維持管理費（過去3ヵ年平均）5,102千円 《単位当たりコスト》平均 39千円/日 ・平成26年度 3,096千円、25年度 5,455千円、24年度 6,754千円																									
	老朽化状況	・稼働年数42年／耐用年数15年	老朽化率 100 %																								
	課題・問題点	・耐用年数を大幅に超過しており、船体各部が劣化により限界を迎えている。このため修繕費用が嵩む傾向にある。																									
今後の対応 (局計画)		・老朽化にかかる更新に合わせ新船を購入し、維持管理費用の低減を図る。																									
見積概要 (局評価)		・現在運用している指揮艇を更新することで、維持管理にかかる経費の縮減を図る。28年度は購入費を見積もる。  <コスト比較> (単位:千円) <table border="1" style="margin: 5px auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>減価償却</th> <th>維持管理費</th> <th>修繕費</th> <th>燃料費</th> <th>年間コスト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>更新後</td> <td>1,766</td> <td>2,094</td> <td>1,944</td> <td>150</td> <td>3,860</td> </tr> <tr> <td>現行</td> <td>-</td> <td>5,102</td> <td>4,891</td> <td>211</td> <td>5,102</td> </tr> <tr> <td>差引</td> <td>1,766</td> <td>△3,008</td> <td>△2,947</td> <td>△61</td> <td>△1,242</td> </tr> </tbody> </table> ※ 現行：24-26実績平均値	区分	減価償却	維持管理費	修繕費	燃料費	年間コスト	更新後	1,766	2,094	1,944	150	3,860	現行	-	5,102	4,891	211	5,102	差引	1,766	△3,008	△2,947	△61	△1,242	28年度見積額 28,446 千円  27年度予算額 3,460 千円
区分	減価償却	維持管理費	修繕費	燃料費	年間コスト																						
更新後	1,766	2,094	1,944	150	3,860																						
現行	-	5,102	4,891	211	5,102																						
差引	1,766	△3,008	△2,947	△61	△1,242																						
財務局評価		・更新により、維持管理経費の削減効果が見込まれ、コストの縮減が図られていることから、見積額のとおり計上する。	<table border="1" style="margin: 5px auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">妥当</td> <td style="text-align: center;">見直し</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">見送り</td> <td style="text-align: center;">その他</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">28年度予算額</td> <td style="text-align: center;">28,446 千円</td> </tr> </table>	妥当	見直し	見送り	その他	28年度予算額	28,446 千円																		
妥当	見直し																										
見送り	その他																										
28年度予算額	28,446 千円																										

<b>6</b>	<b>小型ヘリコプターの更新（はやぶさ1号・3号）（警視庁）</b>	管理・運用開始	平成 9 年度																				
資産の概要		・はやぶさ1号・3号は、緊急配備発令時の捜査、追跡及び各種情報収集活動等を行うために配備する小型ヘリコプターである。(運用開始…1号10年度、3号9年度)																					
現状分析	需要状況 (利用・稼働等)	【稼働状況】 <1号>26年度 320時間、25年度 370時間、24年度 396時間 <3号>26年度 71時間、25年度 328時間、24年度 397時間																					
	維持管理コスト	<1号>維持費(所有)年間：13,098千円 《単位当たりコスト》3年平均 36千円/日 (26年度 13,426千円、25年度 11,035千円、24年度 14,832千円) <3号>維持費(所有)年間：43,641千円 《単位当たりコスト》3年平均 120千円/日 (26年度 105,924千円、25年度 10,125千円、24年度 14,872千円)																					
	老朽化状況	<1号>稼働年数17年/耐用年数20年 (30年度更新時 稼働20年) <3号>稼働年数18年/耐用年数20年 (29年度更新時 稼働20年)	老朽化率 (1号) 85.0% (3号) 90.0%																				
	課題・問題点	・はやぶさ1号は平成11年2月、3号は10年2月にそれぞれ配備され、30年・29年度末に20年を経過する。飛行時間の増加及び経年変化等により故障率も増加し、性能の劣化により安全性への懸念が発生しており、更新が必要である。																					
今後の対応 (局計画)		・一機毎の単年度更新から、債務負担行為による複数年度更新とし、更に更新時期に合わせ複数機(二機)を同一機種で更新する。複数機の一括契約及び同一機種導入による部品共有化から原材料費を圧縮する等、経費の縮減を図る。																					
見積概要 (局評価)		・債務負担行為による複数年度更新とし、更に更新時期に合わせ複数機(二機)を同一機種で更新する。複数機の一括契約及び同一機種導入による部品共有化から原材料費を圧縮する等、経費の縮減を図る。  (単位:千円) <table border="1" style="margin: 5px auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>2機同時・同一機種更新</th> <th>一機毎更新(計2機)</th> <th>経費縮減効果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本体購入費</td> <td>2,210,246</td> <td>2,339,802</td> <td>△ 129,556</td> </tr> <tr> <td>部品購入費</td> <td>4,785</td> <td>25,053</td> <td>△ 20,268</td> </tr> <tr> <td>航空機要員養成経費</td> <td>205,740</td> <td>411,480</td> <td>△ 205,740</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2,420,771</td> <td>2,776,335</td> <td>△ 355,564</td> </tr> </tbody> </table>		2機同時・同一機種更新	一機毎更新(計2機)	経費縮減効果	本体購入費	2,210,246	2,339,802	△ 129,556	部品購入費	4,785	25,053	△ 20,268	航空機要員養成経費	205,740	411,480	△ 205,740	合計	2,420,771	2,776,335	△ 355,564	28年度見積額 — 千円  27年度予算額 — 千円
	2機同時・同一機種更新	一機毎更新(計2機)	経費縮減効果																				
本体購入費	2,210,246	2,339,802	△ 129,556																				
部品購入費	4,785	25,053	△ 20,268																				
航空機要員養成経費	205,740	411,480	△ 205,740																				
合計	2,420,771	2,776,335	△ 355,564																				
財務局評価		・債務負担行為により、複数機を同一機種で更新していくことは、購入費に加え、購入後の運用経費の縮減にもつながることから、見積額のとおり計上する。	<table border="1" style="margin: 5px auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">妥当</td> <td style="text-align: center;">見直し</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">見送り</td> <td style="text-align: center;">その他</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">28年度予算額</td> <td style="text-align: center;">— 千円</td> </tr> </table>	妥当	見直し	見送り	その他	28年度予算額	— 千円														
妥当	見直し																						
見送り	その他																						
28年度予算額	— 千円																						

## 事業評価票（資産分析を行う事業）

7	恒温恒湿室の更新（東京消防庁）	管理・運用開始	平成 元 年度															
資産の概要		<ul style="list-style-type: none"> <li>恒温恒湿室は温度及び湿度を任意に設定することで、熱気が充満する火災室等を再現し、消防活動環境下の身体上や心理的な影響を検証するための設備である。</li> </ul>																
現状分析	需要状況 (利用・稼働等)	<b>【稼働状況】</b> ・26年度 39日155時間、25年度 34日119時間、24年度 21日124時間																
	維持管理コスト	・維持管理費（所有）/年間：901千円 ≪単位当たりコスト≫ 3年平均 29千円/日 ・26年度 0千円、25年度 0千円、24年度 2,704千円																
	老朽化状況	・稼働年数26年/耐用年数7年	老朽化率	100 %														
	課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>老朽化が進み、耐用年数を越えた運用となっている。</li> <li>暑熱環境等の再現能力に制限があり、機能向上が必要である。</li> </ul>																
今後の対応 (局計画)		・現状の需要状況を考慮のもと、検証に必要な機能を備えた恒温恒湿室に更新することで、維持管理コストを縮減するとともに、老朽化へ対応する。																
見積概要 (局評価)		<ul style="list-style-type: none"> <li>更新に当たっては、リースと購入について新設備の耐用年数である15年間のコスト比較を行った結果、購入で更新し、経費の縮減を図る。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">                     ≪リースと購入とのコスト比較(15年間)≫                      (単位：千円)                 </div> <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">区 分</th> <th style="width: 15%;">リース料</th> <th style="width: 15%;">購入費</th> <th style="width: 15%;">維持管理費</th> <th style="width: 15%;">合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>所 有</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: right;">117,720</td> <td style="text-align: right;">13,500</td> <td style="text-align: right;">131,220</td> </tr> <tr> <td>リ ー ス</td> <td style="text-align: right;">174,172</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: right;">174,172</td> </tr> </tbody> </table> </div>		区 分	リース料	購入費	維持管理費	合計	所 有	-	117,720	13,500	131,220	リ ー ス	174,172	-	-	174,172
区 分	リース料	購入費	維持管理費	合計														
所 有	-	117,720	13,500	131,220														
リ ー ス	174,172	-	-	174,172														
財 務 局 評 価																		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>老朽化した恒温恒湿室の更新に際し、設備の有効活用に向けて適切にコスト比較を行っており、見積額のとおり計上する。</li> </ul>																
		妥 当	見 直 し															
		見 送 り	そ の 他															
		28年度見積額	123,477 千円															
		27年度予算額	— 千円															
		28年度予算額	123,477 千円															